

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890600089		
法人名	医療法人社団 渾深会		
事業所名	グループホーム 更紗		
所在地	兵庫県神戸市長田区野田町9丁目4-13		
自己評価作成日	平成28年12月25日	評価結果市町村受理日	平成29年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/">http://www.kaigokensaku.jp/28/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19		
訪問調査日	平成29年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人社団が母体の施設で、医師である理事長に、24時間いつでも連絡を取ることが出来ます。看護師、栄養士が勤務しています。朝、昼、夕食の三食とも、材料からグループホームで調理しています。職員も、ご利用者様と一緒に同じ料理をいただきます。ご入居の方の居室、共有スペースはゆとりを持って広めに設計されています。お一人お一人のご要望を聞きながら、個別に、健康管理、介護、レクリエーション、外出などを行っています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム更紗は、医師である理事長の思いで、6年前に設立された。小規模多機能型居宅介護事業所を併設している。管理者を筆頭に日常生活の質の向上をめざし、ケアマネ・看護師・栄養士の専門職が、介護職とともに、全員で利用者の健康管理を重視した支援に取り組んでいる。事業所前の道路が神戸マラソンのコースとなっているため、利用者家族が参加されたことをきっかけに、毎年楽しみにしており、職員共々応援ランナーに元気をもらっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に掲示し、各ユニットに理念を明示したマニュアルを置いています。	運営理念に掲げられている「個人尊重」「地域」「職員育成」からなるキーワードに盛り込まれた終の棲家となりえる施設づくりに向け、それぞれの専門職が連携する取り組みが実践できている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々に、徐々に、当施設の存在を知っていただけるようになり、ご近所から見学に来られてご入居されるケースが増えてきました。ご入居後は、近隣の喫茶店や理美容院を利用させていただいています。	昔からある住宅地の一角に事業所を新設したため、施設の行事には参加していただけなかったが、地域の行事には親切に迎えていただいていたので、6年後の現在は、併設の小規模多機能事業所と共に、徐々に知名度も上がってきた。	事業所周辺の街の情報が自然に入ったり、自治会の代表が運営推進会議に出席してくれるようになれば地域との関係は盤石です。そのため、小規模多機能事業所と共に「高齢者介護教室」「認知症対策講座」等の開催について検討されたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に数回開催される長田区の小地域ネットワーク連絡会に出席し、地域の高齢者、認知症の方への支援について、他職種で話し合うなどしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、ご利用者様、ご家族様、有識者の方、あんしんすこやかセンターの方からのご意見、質問内容を検討し、運営に反映できるように努めています。	開催後の議事録等は、出席できなかった利用者ご家族にも、日頃のご様子の報告とともに、送付され、運営に意見反映が出来る取り組みがわかるようになされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に開催される長田区グループホーム連絡会で、情報交換をしたり、質問し合うことにより、日々の利用者様への対応等の参考にしています。さらに、年1回、合同で研修会を開催しています。また、疑問点があれば、その都度、神戸市介護保険課や保健所の方にご指導いただいています。	自主的に運営されている区内のグループホーム連絡会についても、開催場所として区役所の会議室が提供されており、市の担当部局の職員も参加され、情報交換が出来る。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の対応に不適切なケアがないかを、毎日の申し送り時やサービス担当者会議で確認しています。いろいろな角度から身体拘束の研修を行なうようにしています。	玄関、エレベーター等共用空間への移動時には、暗証番号によるロックがなされているが、近隣は港湾関係の大型トラックなどが行き来する道路もあり安全面の配慮からやむを得ない点でもある。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底		日常対応の現場で、職員同士が相互に不適	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通して、不適切なケアについて考えるとともに、職員もストレスをためないように、面談を実施したり、管理者から職員へ随時声かけをするようにしています。	切なケア対応ではなかったどうかを見守りあい、注意しあえる雰囲気作りをしている。管理者も必要があれば、個別に即注意するようにされている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者様の中に、成年後見人制度を利用されている方が2名おられます。後見人様1名、保佐人様1名です。随時、連絡を取り、利用者様の権利をお護りしています。	入居に際し、関係者で話し合わせ、後見人制度を利用され、現在まで問題なく、経過している。他の利用者については、現在のところ制度の利用については、予定はない。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご見学、面接、契約時に、ご利用者様やご家族様に説明し、ご質問をお受けしています。契約時には、充分時間(2時間程度)をかけて説明、確認させていただいた上で、ご署名ご捺印をお願いしています。契約内容に変更がある時は、運営推進会議で説明し同意を得るようにしています。	入居に当たっては、施設内を見学して頂き、説明し、面接により、細かな疑問などにも答えられるようされている。入院が必要になる場合や、看取り等に関する質問には、様子を見ながら、経過的に対応相談が出来る事を確認している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、ご家族様との質疑応答、ご要望を伺う機会をもうけています。また、ご家族様の面会時や、電話連絡の際などにも、ご要望を伺います。運営推進会議の議事録は、全ご家庭に送付しています。玄関に、ご意見箱を設置し、記名でも無記名でも受け付けており、必ず回答致します。	意見箱に入れられた意見があれば、検討、報告できるようになっている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で話し合ったり、日頃から何かと意見が出ます。記名でも無記名でも意見を出せるように、管理者宛の意見箱を設置しています。提案を反映させたり、問題を解決出来るようにしています。	管理者宛ての意見箱も設置されているが、スタッフのほとんどが、直接意見交換が出来ている。現在、人員体制の見直しがされ、各自が意見を述べ合い、対応の質を保ちつつ、より、効率的な体制づくりにむけ検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格を取得した職員には、その給与に反映させています。資格をとるための研修費用の一部負担の制度もあります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で実施される研修に職員を出席させ、その職員が講師となって全職員に伝達研修を行っています。また、法人全体での研修も実施できるようになりました。		
14		○同業者との交流を通じた向上	長田区グループホーム連絡会で、アドバイ		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	スし合ったり、研修を実施しています。管理者は、他のグループホームの運営推進会議の構成メンバーとして、学ばせていただいています。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時から、ご利用者様のご希望や表情、ご家族様のお話、関わってこられた関係職種の方々からの情報をサービスに反映させるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた時から、ご家族様のお話を伺い、ご家族様の介護の負担が減り、共に楽になっていただける方法を考えます。ご入居後も、ご家族様と連絡をとりながら、利用者様とより良い関係が続くように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様が当施設に入居された場合、本当に適切で幸せかどうかを見極めるようにしています。ご希望や用途に応じて、他の目的の施設をご案内させていただくこともあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるご利用者様のお話を伺ったり、教えていただくことも多く、共に有意義な時間を過ごさせて頂いています。利用者様が、職員に助言して下さったり、救われることも多いです。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居後も、熱心に面会に来られ、ご利用者様と深く関わられているご家族様が多く、施設にいらしてもご家族様には会えると、安心してすごせる場となればよいかと思います。医療機関の受診やお散歩にお連れくださったり、必要な物品の相談にのってくださったり、ご家族様には、何かと協力いただいています。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居後も、昔からのお友達が面会に来られたり、電話で話したりされる方もおられます。来ていただきやすい雰囲気施設であるよう努めています。また、以前からの先生の往診を続けられる方もおられます。また、福祉用具の利用や理美容院は、施設で決めずに、その方が、利用されていた店を引き続き利用できるような協力させていただいています。	通って行けていた近所にある美容院が、利用者の都合に合わせて出張してくれるようになり、それに合わせて他の利用者も、その時の気分で急をお願いしても、対応してくれている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士で、良好な関係を保ち、ストレス少なく暮らせる内容を施設サービス計画書にもあげて、対応させていただいています。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、いつでも連絡をいただける施設でありたいと思います。退去され、特養に移られた方のご家族様からお手紙をいただいたり、他の利用者様を紹介していただくなど、いつでも、少しでもお役にたつ対応をしたいと思います。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の思いや要望に応える対応を心がけています。お一人お一人が異なることを理解し、その方にとって、適切な対応であることを確認しながらすすめます。	新聞は、フロアごとにとっており、利用者には思い思いの時間で、広告などにも目を通して、手に取っておられるものや、内容から、何に興味を持っておられるか等を知ることできる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居面談時に、ご家族様から生活歴を伺ったり、これまで利用されていたサービス担当者から情報をいただいています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方に応じた生活リズムをもとに、心身の負担なく、有意義な時間をすごしていただけるように努めています。お一人お一人のニーズに合った生活が出来ているか見直しをしています。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	施設サービス計画書の見直し、更新の前、および必要時には、サービス担当者会議を開催しています。合わせて、日々浮上する問題点を検討しています。その際、ご本人様やご家族様からのご要望も併せて取り入れるようにしています。	カンファレンスの日程が決まれば、対象者の氏名をボードに書き出し、4~5日前から表示して、職員全員が、それぞれに気が付いたことを記入して意見を述べる方法がとられている。お互いの情報共有にもなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子、会話や施設サービス計画書による実践等を個人別ケア記録に記入しています。毎日の申し送り時にも伝え、共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当施設だけでは対応出来ないニーズは、外部の社会資源と組み合わせたり、必要に応じて、その都度、柔軟に検討しています。		



自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校で行われる餅つき大会やだんじりにお連れしたり、神戸マラソンの応援や、地域の津波想定避難訓練に参加させていただいています。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居前からのかかりつけ医に引き続き受診していただけます。往診を受けられている方、定期的に通院される方もおられます。先生には、日々のご様子を報告させていただいています。また、当施設の理事長は医師ですので、ご希望される方の主治医となることも可能で、多くの方が往診を受けておられます。緊急時等には、全利用様に対応させていただいています。	総合病院受診の際は、家族にお願いしているが、日常的なかかりつけ医の受診については、殆どの方が、理事長である医師のかかりつけ医として往診の対応が出来ている。皮膚科や歯科についても往診の対応が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の資格を持つ職員が2名勤務しており、介護職員とともに、ご利用者様の健康管理、処置などを行っています。看護職と協働して、ご利用者様の変化に気づき、医師に連絡します。夜間も医師である理事長に連絡出来ることになっています。また、ご家族様が、医療機関の付き添いをして下さる際は、医師への手紙等を用意させていただいています。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は、医療機関の看護師やソーシャルワーカーと情報交換を行います。退院まぢかのご利用者様に対しては、病院関係者の方と相談し、当施設で適切な対応が可能かを確認し、安全に生活していただける対策をしてからお迎えます。	運営母体が医療法人であり、施設の看護職や栄養士などの専門職が連携し、最適な対応が出来るよう情報収集などに努めて、速やかに反映できるように取り組まれている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご希望の方には、看取りの対応をさせていただいています。契約時に、「重度化した場合の対応及び看取り介護に係る指針」に添って説明しています。終末期を迎えられたご利用者様のご家族様と管理者、医師を交えての話し合いの場を持ち、「看取り介護についての了解覚書」、「看取り介護についての同意書」を交わします。ご家族様とは連絡を密に取るようにしています。	状態変化に伴い、ケア対応については、利用者の横臥姿勢や介助方法についても細やかに具体的な方法を検討し、食事内容についても栄養士が調理方法などについても検討し、対応する職員全員で共有し、看取り時の対応に不安感の無いように取り組めるようにされている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、救急車の手配、医療機関への伝達事項、緊急連絡網を表示し、全職員に周知しています。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練と、年1回の津波想定避難訓練を実施します。訓練では、職員が認知症のご利用者様役と誘導係役になり、避難誘導を行います。職員には、入職日に、消火器の設置場所と避難経路を伝えています。	災害対策には限界がない。火災・地震・津波等の災害時に昼夜を問わず、利用者が安全に避難できる方法を身につけるため、消防署の指導の下、年3回小規模多機能事業所と共同で実施している。	年2回の消防避難訓練と年1回の津波想定避難訓練には、地域の方々にも参加を呼び掛けて、利用者が安全に避難できるよう実践的な取り組みを期待したい。又、備蓄の飲料水や食料品は、保存期限の確認を兼ねて、地域での炊き出し訓練時への提供なども検討されたい。

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人一人に、尊厳ある対応を心がけています。不適切なケアがないように研修を実施しています。また、申し送り時や介助中に、個人情報が他利用者様の耳に入らないように気をつけています。	尊厳重視、プライバシー保護については、毎年の年間計画のもと、研修が実施されており、具体的には、申し送り時の場所と声の大きさなどについても配慮することとし、不適切な対応にならないよう注意が払われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を表明したり、自己決定出来るような言葉かけを心がけています。何ごとも、ご本人様のご意向を伺ってから対応するようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方らしい暮らしが出来るように個別対応をしています。時間や業務にとられることなく、思いを出来るだけすぐに受け入れるようにしています。健康を考慮した上で、お一人お一人のライフスタイルに合わせるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の利用者様にも、女性の利用者様にも、お好みの服装で、常に身ざれいにしていただけるように支援しています。カットや毛染め、お化粧なども続けていけるようお手伝いしています。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	三食とも、ご利用者様のおられるフロアのキッチンで職員が調理しています。ご利用者様にも、できる事を一緒にしていただいたり、料理の雰囲気を感じていただいています。また、提供する料理の他にも、お好みの一品を添えていただくことも自由です。	利用者は、自然な流れで、後片付けなど出来ることで参加できているが、加齢とともに参加の機会は減少傾向になっている。誕生日や、季節の行事などには、好みの一品や季節の変化を味わう機会があり、比較的元気な人は、1階の小規模多機能施設が実施するバーベキュー大会に参加することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援			

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<p>栄養士により、栄養管理、献立の作成をしています。食事形態に関しても、毎日、確認しています。ミキサーやキザミ具合、軟らかさなどをお一人お一人のその日の状態によっても微調整しています。食事や水分量、傾向がわかるように記録するとともに、必要量を摂取出来るよう、拒否される方には、時間をずらせたり、召し上がる気持ちになれるような工夫させていただいています。</p>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<p>起床時と食後に、口腔ケアをしています。ご自身で磨ける方にも、声掛けし、必要に応じてお手伝いをさせていただきます。通常の歯ブラシ以外に、お一人お一人に応じて、スポンジブラシ、糸ようじやデンタルリンスを使用させていただいています。また、週1回の歯科医、衛生士の訪問診療があり、ご希望の方に利用させていただいています。就寝時には、義歯の管理をしています。</p>		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄リズムやご希望により、いつでも何度でもトイレにお連れします。ベッドや車椅子ですごしておられる方も、日中は、トイレへお連れします。夜間は、尿パッドが必要な方も、日中は使用しないなど、状態に合わせて対応します。	3ヶ所にトイレがあり、居室内からの移動時に間違わないよう、矢印でトイレ誘導できるよう表示をされている方もある。その人その人のADLに合わせたサポートの仕方が工夫されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士の献立により、朝食時のヨーグルトのほか、温野菜、根菜類、きのこ類をたっぷり毎日提供しています。水分摂取や運動にも注意していますが、それでも便秘の方には、繊維質の補助食品、医師処方の内服薬や坐薬を用いる場合もあります。排便状況はお一人お一人異なるので、個別にそれぞれの方法で対応しています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日には、健康状態を確認し、お一人ずつ入浴していただいています。時間や曜日などは、なるべくご都合に添うようにしています。お風呂が好きな方、必要な方には、週2回以外にも入浴していただきます。お一人ずつお湯を新しくし、お好みのシャンプーなどを使用されています。	健康状態に合わせて、入浴の楽しい雰囲気味わえるよう、好みの香りのシャンプーなども使用して頂く工夫がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調良くすごしていただけるように、夜間は熟睡できる生活リズムを保つことが出来るよう支援しています。健康状態、午睡の傾向、これまでの夜間の生活習慣なども配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様の体調を理解し、医師の処方により服薬していただいています。服薬により、状態がどのようであったかを確認、報告し、診察により調整もしていただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援			

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員に同じサービスを提供したり、同じレクリエーションにならないようにしています。生活歴やご要望、楽しめておられるか等を考慮致します。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段は、近所へ車椅子で(乗ったり押したりして)散歩に行き気分転換をしています。昔よくいかれた神社や寿司屋等へ急に行きたいと言われた場合でもご家族様の理解を得ている方には、なるべく応じるようにしています。また、ご家族様が、面会時に、ご自宅や外食等にお連れくださることも多いです。	商店街のイベントや神戸まつりの区の事業・近隣の学校行事など、様々な地域の情報を注意して収集し、気軽に誘い出せる機会を作っており、積極的に地域との交流が出来るように図っている。家族にも、協力を得て、外出する機会を持てるようにしている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、施設での立替え払いとさせていただきますが、手元にお財布を持っていてほしい方は、金額を控えた上で、お持ちいただいています。職員と一緒にご自分のお財布を持って出かけ、喫茶店の支払いをしたり、おやつや日用品を購入される方もおられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をおかけになりたい時は、いつでもかけていただいています。外部からのお電話の取り次ぎもしています。お部屋で、携帯電話で話されている方もおられ、いずれも、ご家族様も協力して電話に出てくださいませ。お礼状などを出される際はお手伝いさせていただきます。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、常に清潔を保つよう毎日、清掃と除菌を行っています。季節の飾りつけをするときは利用者様にも手伝っていただいています。	掲示物は気になってはがしてしまいたい利用者もあるので、取り立てた飾り物はないが、簡素で清潔な環境が整えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士で、良好な関係を保つことが出来るように、席を考えたり、テーブルやソファの配置についても考慮させていただきます。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やお好みの道具を使っていただくようお勧めしています。かつてご自身で作られたクッションや刺繍の作品を飾ったり、カーテンもお好きな色柄を選んでいただいています。お仏壇、食器棚なども自由に持参していただけます。	それぞれの好みに合わせた家具の配置や、安心できる環境整備に努めている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台やトイレの位置、使い方がわかるように、貼り紙をしてご案内しています。出来るだけ、お一人で行動できるよう見守りながらも、危険な場合はさりげなく介助させていただきます。		

## 基本情報

事業所番号	2890600089
法人名	医療法人渾深会
事業所名	グループホーム更紗
所在地	神戸市長田区野田町9-4-13 電話 078-754-7560


【情報提供票より】平成 29年 1月 5日事業所記入

### (1)組織概要

開設年月日	平成22年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤12人 非常勤9人	常勤換算15.1人

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨造り
	3階建ての2・3階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	88,000 円	その他の経費(日額)		円
敷 金				
保証金の有無 (入居一時金含む)		有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり円			

### (4)利用者の概要( 1月 5日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.1 歳	最低 74 歳	最高 96 歳		

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	公文病院
---------	------



(様式2(1))

事業所名 グループホーム更紗

作成日: 平成 29年 2月 16日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	現在、人員配置及び業務の見直しを行っている。利用者様を尊重したケアを、限られた人員で、最適に行える日常のケアを定着させなければならない。	利用者様にとっても有益で、職員にとってもより働きやすい環境を整える。	実践し、職員の意見をもとに、毎月の職員会議で話し合いながら、改善していく。	6ヶ月
2	2	運営推進会議に、地域の方にあまり出席していただけていない。依頼しても断られることが多い。	毎回の運営推進会議に、地域の方に出席していただだけようになる。ご近所の方と顔見知りになり、施設について興味を持っていただけのようにしたい。	事業所周辺での行事に、積極的に参加し、地域との関わりを増やせるように、もっと街へ出る。まずは、利用者様と一緒に、ご近所を散歩することから始める。	12ヶ月
3					
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(別紙4(3))

## サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他( )
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他( )